

## 2年 道徳科学習指導案

令和4年1月15日（土）

2年 1組 27名 授業者 田村 遥奈  
 2年 2組 27名 授業者 中堀 美佳  
 2年 3組 27名 授業者 加藤 健  
 2年 4組 27名 授業者 太田 直美

- 1 主題名 あきらめないで
- 2 教材名 「ぼくは『のび太』でした ～藤子・F・不二雄」 東京書籍
- 3 ねらい 自分のやるべきことを、しっかりと行おうとする態度を育てる。
- 4 展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	※指導上の留意点
導入	1 「ドラえもん」について知っていることを発表し合う。 ①「ドラえもん」を知っていますか。 ○不思議な道具をポケットから出す。 ○のび太、しずか、ジャイアン、スネ夫が登場する。 ○藤子・F・不二雄さんが描いた漫画。	※興味を高めるために補助資料（「ドラえもん」の絵など）を提示する。 ※作者藤子・F・不二雄を紹介し、教科書p. 104の内容に触れて教材提示に入る。
展開	2 教材「ぼくは『のび太』でした」を読んで話し合う。 ①手塚先生の漫画を1か月もかけて書き写しているとき、どんな気持ちだったのでしょうか。 ○自分も先生のように、うまく描けるようになりたい。 ○漫画が好きだから。 ○大変だけど頑張りたい。  ②手塚先生から1000ページ描いても、本にするときは300ページしか使わないことを聞いたとき、心の中でどんなことを考えたでしょう。 ○漫画を描く仕事は大変だ。 ○僕だったら諦めるかもしれない。 ○努力するってすごい。  ③「子供のころ、ぼくは『のび太』でした。…」という言葉に、藤子先生はどんな思いを込めているのでしょうか。 ○僕は、のび太のように不器用な人間だったけれど、よく頑張ってきた。 ○漫画を描くのは遅いけれど、漫画を読む人のために描き続けてきた。	※のび太は、漫画の中でどんな子供だったか想起する。 ※必要に応じて、教科書p. 105の漫画に触れながら考えるようにする。  ※1000ページのうち300ページしか使わないことを、視覚でも捉えられるようにする（そのページの本を用意する）。  ※藤子先生の、自己を振り返る言葉に込められた思いを考えるようにする。 ※最後まで諦めずに努力するよさについて考えている、学習状況を把握する。 ※「諦めず努力しているか。」と投げかけてから間を取り、次の発問をする。 ※諦めずに続けることの大切さについて、自分の生活を振り返る。
終末	3 今までの自分の生活を振り返る。 ○かけ算九九検定に、諦めずにチャレンジし続けたら、できるようになった。 ○二重跳びがうまく跳べなくて、諦めかけていたけれど、また挑戦しようと思う。  4 教師の説話を聞く。	※諦めずに努力をした経験について話す。

### 5 評価

- ・自分のやるべきことを振り返り、諦めずに努力しようとすることのよさについて考えることができたか。